

31【P2】 I -342

濃縮マカ(Lepidium meyenii)及びムイラブアマ(Muirea puama)による更年期障害に関する研究

○大嶋 正己¹, 具 然和¹, 山下 剛範¹, 長谷川 武夫¹, 馬場 弘行²(¹ 鈴鹿医療科学大学,² (株)コペルニックス・ジャパン)

【目的】本研究では昨年の研究により効果の見られたマカに加え、その催淫性効果が知られているムイラブアマを混合し、更なる効果が見られることを期待している。マカ (MA) およびムイラブアマ (MP) によるエストロゲンなどの分泌促進により、更年期障害に対するホルモン薬としての有用性を検討し、そのデータを基礎研究に資することである。

【方法】 I C R マウスを用いて MA、MP、をそれぞれ 250mg/kg、隔日経口投与を行った。そして雌 1-2 匹に対し、雄 1 匹、6:00am-9:00am の 3 時間交配させ、膣栓の有無で妊娠の確認した。その後、妊娠確認 15 日後に解剖して受胎率などの研究を行った。ホルモンの測定方法は、マウス用エストラジオール-17 β 、プロゲステロン測定用 RIA キットを購入し、ガンマーカウンターを使って 1 検体あたり 2 回の測定を行った。データは ANOVA の検定法により評価を行った。

【結果及び考察】メイト効率と受胎率については、Control 群に対して、MA、MP、MA+MP の♀投与群の上昇が明らかにされた。死亡率については、Control 群に対して、全ての投与群の上昇が認められた。estradiol-17 β 値については、MA、MP、においては Control と比較して上昇の値を示した。progesterone 値については、コントロールと比較して MA の値が有意 ($p < 0.05$) に上昇を示した。また、MA、MP、においてはコントロールと比較して有意差はないものの上昇の値を示した。本実験結果から、MP 連続投与に対して副作用的な症状は認められていない。したがって連続して投与することにより、progesterone 血中濃度上昇に対しては有用な効果が十分期待できるものと考えられる。